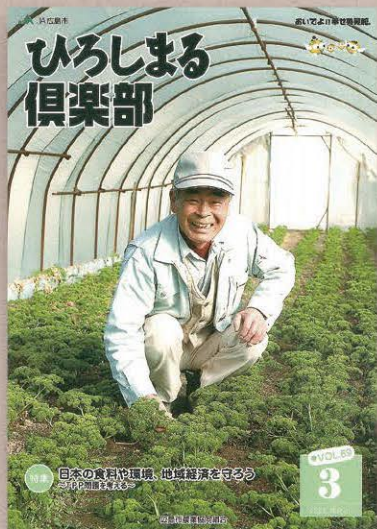


# 農家 今昔 物語

こいぶみの前身「ひろしまる倶楽部」の表紙を飾ってくださったみなさんを、10年経過した今、再び訪れて「今」を話していただきました。



2011

## 地域の人に 多くの『旬』を届けたい

安佐南区祇園 小路 正則さん  
しょうじ まさのり

「昔は田畑ばかりで建物が少なかった。今は畑の方が珍しいよ」と話す正則さん。住宅やマンション、商業施設が立ち並ぶ祇園地区。圃場前の道路を犬の散歩コースにしている人も多いそうで、作業をしていると「これは何?」「今は何を作っているの?」とよく声が掛かるそう。農業から生まれる会話を楽しみながらも、住宅地で常に人目につくため、雑草を丁寧に取り除くなど、景観維持や害虫対策にも気を配っています。

「道行く人に季節の野菜風景を楽しんでもらいたい」また、「消費者にいろいろな旬を届けたい」と、ハウレンソウや祇園パセリ、ジャガイモ、カブ、チンゲンサイ、インゲンなど年間30品目以上を栽培し、武田の里自由出荷市（JA広島市祇園支店前）、ゆめタウン祇園、エプリー楠木店などに出荷しています。種から栽培しているため、これからの季節は1月に播種したトマトなど、夏野菜が並ぶ予定です。

配っています。

「道行く人に季節の野菜風景を楽しんでもらいたい」また、「消費者

にいろいろな旬を届けたい」と、ハウレンソウや祇園パセリ、ジャガイモ、カブ、チンゲンサイ、インゲンなど

年間30品目以上を栽培し、武田の里自由出荷市（JA広島市祇園支店前）、ゆめタウン祇園、エプリー楠木店などに

出荷しています。種から栽培しているため、これからの季節は1月に播種したトマトなど、夏野菜が並ぶ予定です。

奥さまの律子さんは農業の良き理解者。小路家の農作業は役割分担制で、自宅近くの圃場で栽培している地域の伝統野菜「祇園パセリ」の担当は律子さんです。正則さんは、自宅から少し離れた圃場数カ所

所で野菜全般を担当していま

す。担当別でもお互いを手伝ったり、その時期の初物は二人で食べて味を確認して感想を言い合うそう。最近では、祇園パセリが注目され需要が増えたため、連作障害防止を兼ねて正則さん担当の圃場でもパセリ栽培を行っています。

子ども頃から両親の農業を手伝いながら祇園で育ち、65歳で会社を退職したのを期に本格的に就農した正則さん。「10年でやっと一人前になったと思ったが、毎年気候も変化し同じ年は無い。81歳になっても反省ばかり」。それでも生涯農業と向き合っていきたいと正則さんは笑顔で話します。

子ども頃から両親の農業を手伝いながら祇園で育ち、65歳で会社を退職したのを期に本格的に就農した正則さん。「10年でやっと一人前になったと思ったが、毎年気候も変化し同じ年は無い。81歳になっても反省ばかり」。それでも生涯農業と向き合っていきたいと正則さんは笑顔で話します。

子ども頃から両親の農業を手伝いながら祇園で育ち、65歳で会社を退職したのを期に本格的に就農した正則さん。「10年でやっと一人前になったと思ったが、毎年気候も変化し同じ年は無い。81歳になっても反省ばかり」。それでも生涯農業と向き合っていきたいと正則さんは笑顔で話します。

子ども頃から両親の農業を手伝いながら祇園で育ち、65歳で会社を退職したのを期に本格的に就農した正則さん。「10年でやっと一人前になったと思ったが、毎年気候も変化し同じ年は無い。81歳になっても反省ばかり」。それでも生涯農業と向き合っていきたいと正則さんは笑顔で話します。

子ども頃から両親の農業を手伝いながら祇園で育ち、65歳で会社を退職したのを期に本格的に就農した正則さん。「10年でやっと一人前になったと思ったが、毎年気候も変化し同じ年は無い。81歳になっても反省ばかり」。それでも生涯農業と向き合っていきたいと正則さんは笑顔で話します。



2021

◀「祇園パセリ」を手を持つ正則さんと律子さん。地域の伝統野菜も大切に守り続けています。



▲毎週水曜日はJA広島市祇園支店の前で朝市を開催。季節に合わせた小路さんの新鮮な野菜も並んでいます。

